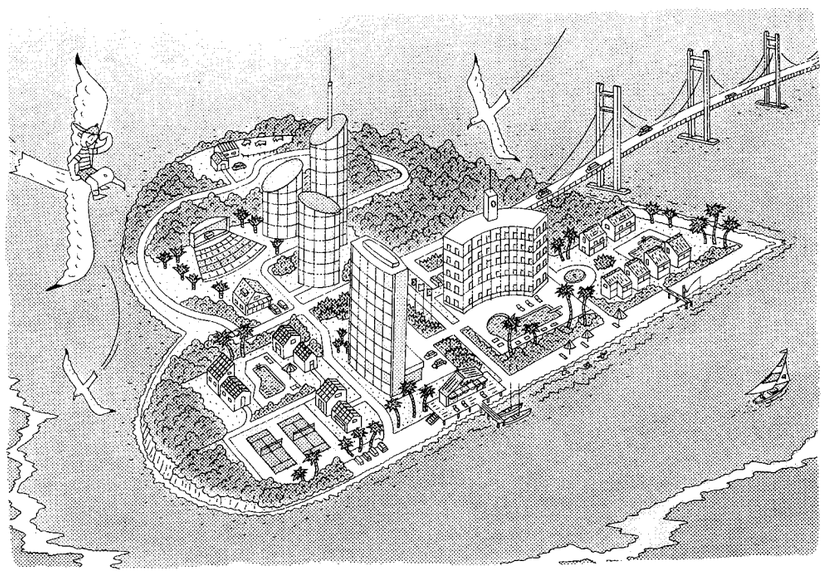
人と地球にあたたかな技術、ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。人にあたたかな技術を追究し、夢を確かなカタチに育て、感動の明日を築いていきます。



東洋建設
東京都江東区青海二丁目4番24号 青海フロンティアビル
〒135-0064　TEL.(03)6361-5450
http://www.toyo-const.co.jp

地球の未来は人の未来。

鳥のさえずり、木々のざわめき、青い空と輝く海。
ほら、地球はこんなにも美しい。
これからも大切にしたいから、
僕らができること、少しずつはじめなくちゃ。

Yes! Harmony
東亜建設工業
〒163-1031　東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー　http://www.toa-const.co.jp/

生物多様性配慮への取り組み

昨年はCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が10月に愛知県で開催されたこともあり、企業の「生物多様性配慮」に対する認識も底上げされた。これまで企業は環境保全コストを「リスク」ととらえてきたが、コスト（投資）に見合った効果を享受できて初めて「企業は継続して多様性配慮に取り組める」との意識が、産業界全体に広がりつつある。こうした企業のコスト意識の変化が、ゼネコン各社の提案強化に追い風を送っている。

環境へのコスト意識変化

ミツバチ飼育

鹿島は他社に先がけていち早く生物多様性配慮に取り組んできた。同社が重視するのは、指標や生態系回復に活用できる機能を持つ「ツール」。

その代表が街中でミツバチを育てる「鹿島ニホンミツバチプロジェクト」。ミツバチは花の蜜を集める時に受粉する。その植物の実を食料にする鳥が増え、さらに周辺の害虫をエサにして生態系が安定する。こうしたミツバチの行動特性を利用し、地域の生物多様性回復に結びつける。

大成建設の富士山南陵工業団地

理想の工業団地

大成建設は生物多様性に配慮した、環境対応型の工業団地を造成して分譲販売するユニークな取り組みを推し進める。この「富士山南陵工業団地」は生物多様性に配慮した30年後の理想の姿を造成計画に織り込んで、静岡県富士宮市に同社が独自に造成。

環境時代に〝工業団地はどうあるべきか〟の提案だ。この工業団地は特に、環境対策の財務基盤も弱く専門担当者も少ない中小企業であっても、本格的な生物多様性に配慮できる。大手取引先から環境対応を迫られる、中小工場の悩みを解決する提案だ。

里山保全

都市の開発は環境配慮が計画の前提条件になりつつあるが、投資効果が予測できる省エネ技術と比べ、生物多様性配慮は効果が見えにくいほか結果確認も数年先になる。このことが対策投資の進行を阻害している言われている。

この点に着目したのが清水建設。中部大学（愛知県春日井市）と2010－14年度に進めている、同大内での「里山保全」の共同研究などを通じて独自に生物多様性を評価する技術を開発。現状で想定できる影響を建築物などのパース（完成予想図）に反映し可視化する技術を開発する。工場にも生物多様性の提案が求められると見ており、このパース技術を生かした計画提案を進める考えだ。

防虫建材

生産現場にもゼネコンの生物多様性配慮技術が生かされている。竹中工務店はニックスと、生物多様性配慮の防虫建材「ARバグバンパーARINIXIIシリーズ」を共同開発し、工場への適用を推進する。

このバンパーは樹脂製で虫が嫌う忌避成分を含浸、さらに形状を逆U字形に加工。工場の開口部周囲に取り付けると虫が嫌って近づかない。ムカデなど昆虫以外の害虫も逆U字の形状が虫返しの機能を発揮し侵入を防ぐ。食品や医薬品メーカーにとって工場への昆虫混入が悩みの種。従来は殺虫剤散布や薫蒸が一般的だが、人と生物の生活エリアを「穏やかに分ける」という問題意識が、新建材を生み出した。

サンゴ礁再生

大林組は自然環境の再生という視点で、生物多様性配慮の技術を発揮する。環境省の委託により高知県の竜串海中公園地区で、サンゴ礁（しょう）再生のため浚渫（しゅんせつ）工事を実施した。

01年に高知県を襲った「西南豪雨災害」で土砂が竜串海中公園に多量流入、サンゴが甚大な被害を受けた。浚渫工事は同地区に堆積した泥土を、海水とともにホースで吸引して除去。この海水はポンプで処理プラントに送り、凝集剤で海水と泥に分離する。この工事によって自生する、卓上ミドリイシ群集が本来の姿を取り戻しつつある。

清水建設は中部大学と里山保全の研究を通じて、都市の生物多様性保全の提案に生かす（中部大の実験区画）

農場整備

戸田建設は明治大学と共同で、13年度をめどに生物多様性保全の計画ノウハウを確立する方針だ。戸田建はこの技術を用いて、14年度にも都市部の大型再開発物件などに初適用する考え。

同社は明治大の依頼で川崎市麻生区の丘陵地に12月完成予定で「明治大学黒川新農場」を整備している。この農場で絶滅危惧種や希少種生物の保全、里山の再生に向けた研究を開始した。施設完成後は1－2年間モニタリングを行って計画技術を実用化する。

建設産業

美しい時代へ── 東急グループ

Town Value-up Management
タウン バリューアップ マネジメント

街の新たな価値創造をめざして

私たち東急建設の原点は、多摩田園都市をはじめとする渋谷や東急沿線の街づくりです。私たちはこの原点に立ち、企画提案から新築、リニューアル、建て替えに至るまで、街のライフサイクルに末永く関わっていくことによって、建物ひとつひとつではなく、お客様や生活者の視点で“まち”全体を考え、常に新たな価値の創造に努めてまいります。

街並の美観向上　定住人口の増加
Town Value-up Management
来街者の増加　資産価値の向上

東急建設株式会社
http://www.tokyu-cnst.co.jp/